



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社フーバーブレイン 上場取引所 東
 コード番号 3927 URL <https://www.fuva-brain.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 輿水 英行
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 石井 雅之 TEL 03-5210-3061
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,119	45.7	62	-	54	-	34	-
2022年3月期第2四半期	768	-	△62	-	△61	-	△54	-

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 40百万円 (-%) 2022年3月期第2四半期 △54百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	6.51	6.49
2022年3月期第2四半期	△10.28	-

(注) 2022年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,860	1,433	49.2
2022年3月期	2,232	1,393	61.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 1,406百万円 2022年3月期 1,368百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年3月期	-	0.00	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	2,000	18.8	0	-
	～ 2,300	～ 36.7	～ 100	～ -

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	5,600,200株	2022年3月期	5,600,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	261,362株	2022年3月期	261,362株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	5,338,838株	2022年3月期2Q	5,329,884株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（2023年3月期の連結業績予想について）

当社グループが属する業界における環境変化の速さ及び新型コロナウイルス感染症の影響度合を勘案し、レンジ形式にて通期売上高及び営業利益の連結業績予想値を開示しております。経常利益以下の各利益については、当社グループの事業構成の多様化も踏まえた機動的な事業展開を実施する観点から、今後の営業外収益または費用等の適正かつ合理的な数値の見積もりは困難であるため、算出しておりません。

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び連結子会社）は、2025年3月期に連結営業利益5億円達成を業績目標に掲げ、「情報の活用」及び「セキュリティ+α」を事業方針とした「ITツール事業」及び「ITサービス事業」を展開しております。

各事業の営業活動については、ITツール事業において、営業拠点及び隣接地域への積極的な販路拡大を見据えた面開拓戦略を継続し、ITサービス事業においては、パートナー企業との連携強化による事業拡大の営業戦略を展開しております。

当該業績目標、事業方針及び営業戦略のもと、①販路の拡大、②収益構造における事業の多様化、③新製商品及び新規事業の企画開発を当社グループの対処すべき課題として認識し、さらなる成長の実現に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響に対応し、また、従業員の安全に配慮しつつ、上述の事業方針及び営業戦略の推進並びに各課題に取り組んでまいりました。

ITツール事業においては、引き続き身代金要求型ウイルス「ランサムウェア」や不正メール拡散ウイルス「Emotet（エモテット）」等、被害が目に見えるサイバー攻撃の拡大により、セキュリティツールの当社製商品の需要が継続して高く、また戦略的開拓新規販売代理店群を中心に新規及び既存を問わず幅広く当社販売代理店の販売実績が拡大し、継続して業績を伸ばしております。

働き方改革ツールの働き方改革支援製品「Eye “247” Work Smart Cloud（アイ・トゥエンティフォー/セブン ワークスマート クラウド）」については、新型コロナウイルス感染症対策のテレワーク対応に加え、生産性向上に向けた導入事例等もあり、導入企業は1,800社超（2022年9月30日現在）と、引き続き増加しております。しかしながら、「Eye “247” Work Smart Cloud」の市場競争環境は高まっている状況にあり、当社は「Eye “247” Work Smart Cloud」の競争力向上に向けた製品力の強化に引き続き注力しております。

ITサービス事業においては、連結子会社GHIインテグレーション株式会社（以下、「GHI」という。）のITエンジニア人材（以下、「IT人材」という。）に対する需要が高い状態が続いております。国内外での積極的な採用活動により、需要に応えられるIT人材の確保に努めております。

以上の取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,119,758千円（前年同期比145.7%）となりました。営業損益については、当社働き方改革支援製品「Eye “247” Work Smart Cloud」の製品力強化に向け、積極的な開発活動を継続しつつも、営業利益62,606千円（前年同期は営業損失62,115千円）となりました。経常損益及び親会社株主に帰属する四半期純損益は、外貨建て支払債務等に係る為替差損及び新株予約権（ストック・オプション）の発行に係る費用等を計上し、経常利益54,399千円（前年同期は経常損失61,142千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益34,768千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失54,811千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ITツール事業)

当第2四半期連結累計期間の売上高は751,586千円（前年同期比161.9%）、セグメント利益は129,485千円（前年同期比301.9%）となりました。

(ITサービス事業)

当第2四半期連結累計期間の売上高は368,171千円（前年同期比121.1%）、セグメント利益は62,523千円（前年同期比180.6%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ628,242千円増加し、2,860,265千円となりました。これは主に、前払費用が128,212千円及び長期前払費用が500,059千円それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計の額は、前連結会計年度末に比べ587,909千円増加し、1,426,891千円となりました。これは主に、前受金が138,494千円及び長期前受金499,089千円それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計の額は、前連結会計年度末に比べ40,333千円増加し、1,433,374千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益34,768千円の計上により利益剰余

金が増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ14,922千円増加し、1,358,508千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、10,475千円の獲得（前年同期は80,156千円の支出）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益54,468千円を計上し、前受金が637,584千円増加した一方、前払費用が628,272千円増加し、仕入債務が23,939千円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、441千円の獲得（前年同期は120,399千円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出3,797千円のうち、敷金及び保証金の回収による収入3,669千円及び保険積立金の解約による収入3,455千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、2,989千円の支出となりました。主な要因は、新株予約権の発行による支出2,989千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年5月13日付公表「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

※新型コロナウイルス感染症の当社グループに対する影響について

当第2四半期連結累計期間においては、当社グループの事業活動に対する大きな影響は発生しませんでした。

当社ITツール事業においては、セキュリティツール製商品の需要が強く、販売を伸ばしております。また、働き方改革支援製品「Eye “247” Work Smart Cloud」については、今後の「ウィズコロナ」、「ポストコロナ」を見据え、テレワーク管理に限らず、生産性向上を目的とした導入案件等、問い合わせが続いております。

ITサービス事業においては、パートナー企業と共に新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、連結子会社GHIを主とした事業活動に対する著しい影響は発生しておりません。日本国内への入国制限緩和により国外IT人材の入国進捗が期待されており、今後の売上高への貢献が見込まれます。

当社グループの新型コロナウイルス感染症対策について、従業員の安全及び出来得る限り事業活動が著しく停滞することのないよう配慮し対応しております。適宜テレワーク勤務の推奨を行いつつ、開発活動や製商品出荷業務に遅滞が発生しないよう対応しております。営業活動については、販売代理店やユーザー企業とのコンタクトについて、WEB会議システム等の活用により、販売代理店への営業支援とユーザー企業への製商品提案を実施しております。

※ウクライナ情勢の当社グループに対する影響について

当社グループにおいては、日本国内における事業活動が主要であり、著しい影響はありません。

このような環境の中で、当社グループの事業活動に対する著しい影響は出ておりません。

しかし、今後上記各事項が長期化・深刻化した場合、下記事由による当社グループの事業及び業績への影響が想定されます。

（ア）当社グループ及び販売代理店含むパートナー企業の営業含めた事業活動の制限

（イ）当社グループの事業拡大に向けた採用活動の停滞

（ウ）当社グループが仕入れるUTM製品やルーター製品及びサーバー製品の生産や輸出入が滞り、品薄状態による仕入コストの増加・仕入難に伴う当社製品の製造コスト増及び出荷停止

（エ）当社グループが国外から仕入れる一部商材について、為替市場の円相場が急激に円安に向かう場合には、仕入コスト増

（オ）ユーザー企業の購買意欲の低減

なお、上記は本日現在において想定されるものであり、状況の変化によって、他の事由が発生する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,343,586	1,358,508
受取手形及び売掛金	288,037	274,107
原材料及び貯蔵品	42,027	51,180
前払費用	91,314	219,527
その他	4,850	1,976
流動資産合計	1,769,816	1,905,300
固定資産		
有形固定資産	5,030	10,920
無形固定資産		
のれん	187,569	179,043
その他	14,507	12,693
無形固定資産合計	202,076	191,737
投資その他の資産		
長期前払費用	16,042	516,102
その他	239,056	236,204
投資その他の資産合計	255,098	752,306
固定資産合計	462,206	954,965
資産合計	2,232,023	2,860,265
負債の部		
流動負債		
買掛金	96,161	72,221
前受金	211,828	350,322
未払法人税等	35,774	21,778
その他	134,795	123,599
流動負債合計	478,560	567,921
固定負債		
退職給付に係る負債	27,796	27,887
資産除去債務	19,880	18,929
長期前受金	280,810	779,899
その他	31,934	32,252
固定負債合計	360,421	858,969
負債合計	838,981	1,426,891
純資産の部		
株主資本		
資本金	796,631	796,631
資本剰余金	838,753	594,840
利益剰余金	△258,509	20,171
自己株式	△10,272	△10,272
株主資本合計	1,366,601	1,401,370
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,699	4,810
その他の包括利益累計額合計	1,699	4,810
新株予約権	9,411	9,484
非支配株主持分	15,328	17,709
純資産合計	1,393,041	1,433,374
負債純資産合計	2,232,023	2,860,265

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	768,298	1,119,758
売上原価	418,705	652,198
売上総利益	349,592	467,560
販売費及び一般管理費	411,707	404,953
営業利益又は営業損失(△)	△62,115	62,606
営業外収益		
受取利息	9	7
為替差益	541	-
助成金収入	244	-
貸倒引当金戻入額	292	-
協賛金収入	110	100
保険解約返戻金	-	273
雑収入	2	2
営業外収益合計	1,201	384
営業外費用		
支払利息	228	-
為替差損	-	4,237
株式交付費	-	3,131
その他	-	1,222
営業外費用合計	228	8,591
経常利益又は経常損失(△)	△61,142	54,399
特別利益		
新株予約権戻入益	-	69
特別利益合計	-	69
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△61,142	54,468
法人税、住民税及び事業税	15,435	16,334
法人税等調整額	△21,766	985
法人税等合計	△6,330	17,319
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△54,811	37,149
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	2,380
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△54,811	34,768

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△54,811	37,149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	3,111
その他の包括利益合計	-	3,111
四半期包括利益	△54,811	40,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△54,811	37,879
非支配株主に係る四半期包括利益	-	2,380

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△61,142	54,468
減価償却費	2,138	2,848
のれん償却額	8,526	8,525
受取利息	△9	△7
助成金収入	△244	-
保険解約返戻金	-	△273
支払利息	228	-
為替差損益(△は益)	△428	△6,995
株式交付費	-	3,131
売上債権の増減額(△は増加)	1,157	13,930
棚卸資産の増減額(△は増加)	△20,087	△9,152
前払費用の増減額(△は増加)	△10,823	△628,272
仕入債務の増減額(△は減少)	△511	△23,939
未払金の増減額(△は減少)	△5,224	△5,276
未払費用の増減額(△は減少)	1,782	695
前受金の増減額(△は減少)	10,062	637,584
預り金の増減額(△は減少)	4,291	2,027
未払消費税等の増減額(△は減少)	△4,602	△11,483
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,787	90
その他	3,279	589
小計	△69,820	38,489
利息の受取額	9	7
利息の支払額	△230	-
法人税等の支払額	△10,358	△28,021
助成金の受取額	244	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△80,156	10,475
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,360	△3,797
資産除去債務の履行による支出	-	△1,330
投資有価証券の売却による収入	20,000	-
敷金及び保証金の差入による支出	△3,020	△296
敷金及び保証金の回収による収入	321	3,669
保険積立金の積立による支出	△1,294	△1,259
保険積立金の解約による収入	-	3,455
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△132,623	-
その他	578	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△120,399	441
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の発行による支出	-	△2,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	△2,989
現金及び現金同等物に係る換算差額	72	6,995
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△200,483	14,922
現金及び現金同等物の期首残高	1,529,598	1,343,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,329,114	1,358,508

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2022年6月27日開催の当社第21回定時株主総会決議により、同年8月12日を効力発生日として、会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を716,631,200円減少させ、同額をその他資本剰余金に振り替えております。また、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を243,912,773円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補を行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ITツール事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	464,243	304,055	768,298	-	768,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	464,243	304,055	768,298	-	768,298
セグメント利益	42,892	34,628	77,520	△139,635	△62,115

(注) 1. セグメント利益の調整額△139,635千円には、一時的に発生する子会社取得関連費用△20,871千円、のれんの償却額△8,526千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△110,238千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ITツール事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	751,586	368,171	1,119,758	-	1,119,758
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	12,283	12,283	△12,283	-
計	751,586	380,454	1,132,041	△12,283	1,119,758
セグメント利益	129,485	62,523	192,009	△129,402	62,606

(注) 1. セグメント利益の調整額△129,402千円には、のれんの償却額△8,525千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△120,876千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。